

為替週間展望 = ドル円はもみ合いで推移か

[6月10日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月3日～6月7日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	157.31	157.47(3)	154.55(4)	155.40	-1.91
ユーロ・ドル	1.0849	1.0916(4)	1.0828(3)	1.0889	+0.0041

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	38,683.93	+196.03	日本10年債利回り	0.977	-0.093
ダウ平均株価	38,886.17	+199.85	米10年債利回り	4.287	-0.212

<来週の主要経済統計等>

- 10日 日本第1四半期GDP 2次速報、日本4月経常収支
- 11日 英5月雇用統計
- 12日 中国5月消費者物価指数、中国5月生産者物価指数
 - 独5月消費者物価指数
 - 英4月鉱工業生産指数、英4月製造業生産指数、英4月貿易収支
 - 米5月消費者物価指数
 - 独4月経常収支
 - 米連邦公開市場委員会 (FOMC、11-12日) 政策金利
 - パウエルFRB議長記者会見
- 13日 豪5月雇用統計
 - スイス5月生産者輸入価格
 - ユーロ圏4月鉱工業生産指数
 - 米新規失業保険申請件数、米5月生産者物価指数
- 14日 日本4月鉱工業生産指数
 - 日銀金融政策決定会合 (13-14日) 金融政策発表
 - 植田日銀総裁記者会見
 - ユーロ圏4月貿易収支
 - カナダ4月製造業出荷、カナダ4月卸売売上高
 - 米5月輸入価格指数
 - 米6月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】米経済指標は伸びが鈍化するにしても緩やかな鈍化にとどまり、極端に悪化する可能性は低いとみられる。こうした点から、ドルは底堅い推移となり、ドル円は押ししたところでは底堅く、高値圏でのもみ合いになるとした。

【ドル円は155円割れでは底堅い動き】

3日の米5月ISM製造業景況指数が市場予想を下回り、悪化したことで米長期金利が低下するとともにドル売りの動きに傾いた。ISMの中では雇用が強かったことで、その後の米雇用関連指標が注目された。

その後、4日の米4月雇用動態調査 (JOLTS) 求人件数は805.9万人となり、市場予想を下回り、

1年前と比べて200万人もの減少となった。米雇用情勢の弱さが確認されたことで、4日にはドル売りの動きが広がった。

また、4日に6月13-14日の日銀金融政策決定会合で日銀が国債買い入れの減額を検討すると報道から4日には円買いの動きも広がった。ドル円は4日のNY市場で

154.55 近辺まで円高が進むこととなった。なお、急速にドル売り円買いが進んだことで、5～6日で156円台半ばまで戻りを見せることとなった。

大きく値を崩して戻りを見せる動きはドル円だけでなく、クロス円でも同様の動きとなった。ポンド円、ユーロ円、豪ドル円なども4日に大きく値を崩した後、再び上昇に転じている。

6月10日の週は12日の米5月消費者物価指数、米連邦公開市場委員会（FOMC、11-12日）政策金利、パウエルFRB議長記者会見が特に注目される。米消費者物価指数（CPI）でインフレ率の鈍化傾向がみられるようなら、早期利下げ観測につながるが、インフレ率の高止まりなら利下げ先送り観測が広がりそうだ。今回のFOMCでは、政策金利は据え置きの可能性が高い。声明やパウエル議長の記者会見で今後の景気動向やインフレ、政策金利動向にどのような認識を示すかが注目される。

12日の米消費者物価指数の事前予想は総合が前年比+3.4%で前回から横ばい、コア前年比は+3.5%で前回の+3.6%から減速するとみられている。

14日には日銀金融政策決定会合の結果発表と植田総裁の記者会見がある。今回は利上げはないとみられる。一部報道では国債買入れ減額に向けてアクションを起こす可能性があり、その場合は円買いにつながる可能性も出てくる。

中村日銀審議委員は6日の講演で、「当面は現状の政策の維持が妥当」「来週の政策決定会合での利上げは早すぎる」「国債買入れ減額の開始時期の決定には、データを見る必要がある」などと述べた。

日銀は金融政策を大きく引き締める方向に動く可能性は低く、近い将来の国債買入れ減額に動く可能性を示唆する程度にとどまりそうだ。このため、円売りに動きが出やすいとみられる。米経済指標は強弱入り混じる中、大きくドル売りにもドル買いにも傾きにくい展開か。こうした中、155～157円台を中心とするもみ合いになるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、154.00～159.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、10日に日本第1四半期GDP2次速報、日本4月経常収支、12日に米5月消費者物価指数、米連邦公開市場委員会（FOMC、11-12日）政策金利、パウエルFRB議長記者会見、13日に米新規失業保険申請件数、米5月生産者物価指数、14日に日本4月鉱工業生産指数、日銀金融政策決定会合（13-14日）金融政策発表、植田日銀総裁記者会見、米5月輸入価格指数、米6月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ECBは利下げに動くも、インフレ見通しを上方修正】

6日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、0.25%の利下げを決定した。ラガルド総裁は理事会後の記者会見で、「インフレ減速が今後も継続するとの自信が深まった」「今後も緩和を続けるかはデータ次第」「ECBは特定の金利の道筋を事前に約束しない」などと述べた。

ECBは今年と来年のインフレ見通しを引き上げた。今回、利下げには動いたものの、タカ派的と捉えられて、ユーロドルは1.08ドル後半を中心に底堅い動きを見せた。インフレへの根強い警戒感を示したこともあり、ユーロドルは堅調な推移を続けるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0750～1.1000ドル。

ポンドドルは1.27～1.28台で底堅い動きを見せている。英国では7月に総選挙を控えていることから、英中銀（BOE）による利下げは9月か11月とみられている。このため、ポンドドルは堅調に推移して、緩やかに上昇するとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2700～1.2900ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、11日に英5月雇用統計、12日に中国5月消費者物価指数、中国5月生産者物価指数、独5月消費者物価指数、英4月鉱工業生産指数、英4月貿易収支、独4月経常収支、13日に豪5月雇用統計、スイス5月生産者輸入価格、ユーロ圏4月鉱工業生産指数、14日にユーロ圏4月貿易収支、カナダ4月製造業出荷、カナダ4月卸売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。